

2023年度 ブロック長意見交換会

1. 日 時 : 2023年8月19日(土) 13:20~14:45

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 24名

大橋健(代表理事)、水野勝教(専務理事)、今井俊二(理事・沖縄)、島谷太(理事・阪神)、中島晃芳(理事)、野村泰朗(理事)、松山森仁(理事、関西代理)、森重智年(理事)、政岡恵太郎(理事)、瀧本英智(理事)、田中宏明(監事)、高橋忠(東北)、宮下充(関東)、玉水亘(埼玉)、内村公紀(茨城代理)、栗田稔(静岡代理)、山田吉孝(東海)、出村公成(石川)、吉本光希(京滋奈)、井関暁洋(中丹・南丹)、澤山博幸(岡山)、山野真一(広島)、樋川直人(四国)、是澤真利(九州代理)

(2) 欠席者 7名 松本紗映(北海道)、山田巧(群馬)、瀬谷知之(福島・栃木)、吉楽雅典(北信越)、宮崎倫明(岐阜)、玉島琢巳(兵庫)、村川立美(島根)

(3) その他出席者 梅田寛康(オンステージ技術委員長)、前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. テーマ

1. 2023名古屋大会の総括
2. 2024名古屋大会について
3. 名古屋大会以降の会場について
4. 定款, 運営規程の見直しについて
5. その他

5. 資料

資料1 ロボカップジュニア参加にあたって

6. 意見交換会概要

(1) 2023名古屋大会の総括

・サッカー担当の松山理事より、大きな変更点はNLとWLのフィールドがWL・Bコートに統一されたことで、設備の保全やスケジュールの効率化が計れた。前回までは16~17コートを準備して約110チームの試合を実施したが、今回は11コートで同じチーム数の対戦が可能となった。しかし、全国的にはAコートしかないブロックもあり、当面は併用するが、ジャパンオープンではBコートで統一することで進めていくとの報告がなされた。また、大会当日はシステムトラブルがあり、試合数を削減する結果となり、ご迷惑をおかけした。今後は技術委員の体制強化とシステムの改修に向けて取り組んでいきたい。

・レスキュー担当の森重理事より、各ブロックからスタッフに参加頂いたことに謝意を述べた。NLのMaze EntryとWLのRescue Simulationの新リーグを設立し、引き続き皆さまのご協力を仰ぎたいと述べた。

・OnStage担当の中島理事より、人員不足もありスタッフに負担過多があったのは反省点である。今年は、茨城ブロックからもスタッフに参加頂いた。また、今後OnStageのNIPPONリーグで1人チームの参加を許可するべきか、技術委員会で議論がなされており、決まり次第知らせることとなった。

・OnStage技術委員長の梅田寛康氏より、予算の関係もあり、ステージが上げられず床に座って見てもらう点は改善して欲しい。時間、計画、テーマを考える等の難しい点があり、参加したいチ

ームがあれば相談して欲しい。地元開催であったため、参加型のイベントがもっとあれば良かったとの声があった。今後、地元企業で参加するところがあれば、声を掛けていきたい。

・大橋代表理事より、予算的制約もあり無理をお願いした。チームやメンターに連絡が充分行き届かなかった等のクレームもあった。次回ジャパンオープンでは、改善できるよう検討したい。今回は、協賛の希望があれば開催事務局にもお伝えします。

(2) 2024名古屋大会について

・大橋代表理事より、名古屋大会は当初3年連続を計画していたが、コロナのため2年中止となった。2024年のジャパンオープンも引き続き名古屋市での開催が正式に決定した。開催規模、予算は、ほぼ2023年と同様となる。交流会が実施できなかったので、2024年は交流会を開催しチーム間のコミュニケーションが取れるようにしたい。

・水野専務理事より、2023年に引き続き、2024年の実行委員長を務めることを報告した。

(3) 名古屋大会以降の会場について

・2025年のジャパンオープンの開催地は確定していないが、調整中ではあるので、決まり次第報告する。

(4) 定款、運営規程の見直しについて

・大橋代表理事より、総会でもご指摘があった通り、現行の定款では運営規程との整合性が取れていない点があり、修正する必要がある。来年の総会で案を議論し、再来年の理事改選の際に登記が必要になるので、その際に定款を修正すること。

運営規程については、理事からメンバーを募り、修正(案)を10月頃までに策定したい。

・関東ブロック宮下充氏より、HPのロボカップについての項目の中で、2013年から委員名簿が更新されていないので、対応して欲しいとの要望があった。大橋代表理事より、対応するとの回答がなされた。

(5) その他

・森重理事より、資料1に基づき、理事有志で新しくロボカップに参加する選手、メンター、保護者向けに、活動に際しての留意点をまとめた資料について、午前中の理事会で議論の結果、考えや行動を制約しかねないとの意見があり、(資料の配布ではなく)口頭でお伝えする際の参考資料として活用してもらうよう説明がなされた。

・大橋代表理事より、2024年のジャパンオープンに向けて、各ブロックからの報告を求めた。

●東北ブロック長・高橋忠氏より、例年通り11月、12月にノード、1月にブロック大会開催を予定。大会はコロナとインフルに留意して実施する。

●関東ブロック長・宮下充氏より、神奈川ノード、西東京ノード大会11/18, 19、千葉ノード大会11/26を予定しており、ブロック大会は1月初旬予定。コロナ対応をして、一般来場者を入れたい。千葉ノードは学校の部活としての参加が多いため、参加数が減っており、コロナ明けの回復を期待している。

●埼玉ブロック長・玉水亘氏より、10月1日にルール説明会、12月にノード、1月初旬にブロック大会を開催予定。

●茨城ブロック長代理・内村公紀氏より、12月23日ノード大会、1月ブロック大会を予定。

●静岡ブロック長代理・栗田稔氏より、ノード大会は12月、ブロック大会は1月に開催予定。

●東海ブロック長・山田吉孝氏より、昨年は分散開催だったが、今年は1会場で12月9日にブロック大会を開催予定。

●石川ブロック長・出村公成氏より、12月3日に体験会とノード大会を開催予定。

●関西ブロック長代理・松山森仁氏より、11月下旬から12月にノード大会、1月下旬から2月にブロック大会を予定。4年ぶりに夏のオープン大会を開催予定。関西は個人参加が多かったが、コロナのため、個人参加がほぼ無くなったとのこと。

- 京滋奈ブロック長・吉本光希氏より、3ノード大会を12月中、ブロック大会を1月上旬に開催予定。彦根ノードを守山ノードに変更した。
- 中丹・南丹ブロック長・井関暁洋氏より、休眠状態が続いており、大会予定なし。活動場所が無い個人参加は難しいので、学校、教育委員会に相談するしかない。
- 阪神ブロック長・島谷太氏より、神戸ノードの活動なし。尼崎ノードは個人参加が無く、学校単位での参加のみ。
- 岡山ブロック長・澤山博幸氏より、ノード大会は11月、ブロック大会は12月を予定。参加人数は年々減少している。
- 広島ブロック長・山野真一氏より、12月にノード大会、1月にブロック大会を開催。エントリー数は減少。4回講習会を予定しており、前は10名の参加があった
- 四国ブロック長・樋川直人氏より、3ノードは11月～12月ノード大会、1月28日にブロック大会の予定。瀬戸内オープンに参加し、交流会が出来て良かったとのこと。
- 九州ブロック長代理・是澤真利氏より、ノード大会は12月、ブロック大会は1月6-7に開催予定。
- 沖縄ブロック長・今井俊二氏より、2ノードが活動中で年内にノード大会、年明けにブロック大会を開催予定。

・水野専務理事より、午前の理事会で、一部のブロックと連絡が取れないと報告があり、整理することも含めて、理事会で検討していく予定。

・静岡ブロック・栗田稔氏より、サッカーコートは今後も共通コートになるという認識でいいかとの質問があり、松山理事より、2024年については、ジャパンオープンではフィールドは統一する。2024年の競技運営指針を9月に発表できるよう作業中との回答があった。

・梅田寛康氏より、OnStageはジャパンオープン直前に参加を辞退するチームがあった。参加の意思確認を12月中、遅くとも1月中旬に確認して欲しい。松山理事より、昨年12月末までにノードのエントリー情報を集めることになっており、枠は1月中旬に決めることができる。大会エントリー前に意思確認をしても、大会中に意思が変わるチームもあり、エントリー時に決めるのは難しいのではないかと。大橋代表理事より、コロナが2類だったこともあり、学校の意向で参加できないチームもあった。ブロック大会の開催が遅いところは、大会エントリー時点でジャパンオープン参加意思を確認してはどうかと提案があった。

・大橋代表理事より、ポスターの展示場所について、展示場所が奥にあったため、次回からは各リーグに近い場所にするなど検討したい。競技する場所とポスターが近くにあれば、一般来場者の方も実物とポスターを見比べることができていいのではないかと。宮下充氏より、全チームのポスターを展示した方が良かったのではないかと。Webで見ることができるといいが、東海では投票などをしていいポスターを可視化して、議論している。大橋代表理事より、来年は実物を展示することを義務付けて行きたい。梅田寛康氏より、会場にQRコードを張るなどして、一般来場者の方が、簡単にアクセスできるようにしてはどうかとの意見があった。

・山田吉孝氏より、ジャパンオープンのNLに一度出場したら、翌年からWLにチャレンジしなければならないルールについて、確認がなされた。他のブロックから特に意見は無いのか。松山理事より、関西ブロックは学校からのエントリーがほとんどなので、WLから参加するチームもあり、特に異論はない。高度な技術を求めなければ、ビギナーレベルでもWLに参加できる。ジャパンオープンという大きな大会を経験してもらいたいとのこと。静岡ブロック・栗田稔氏より、全員個人参加で、1年目の子供はようやく動かせる状態。2年目からWLは難しい。以前は1日目予選、2日目本選と分かれていた。本選まで行けたチームは、次年度からWLに行くとかの線引きはできないか。中島理事より、毎年、上位や優勝するチームが何度も日本リーグに参加するのが問題ではないか。松山理事より、どの順位で区切るのかが難しい。その年によっても力の差がある。サッカーは1試合の勝敗で順位が10ほど変わるので、線引きが難しい。中島理事より、賞を取ったらWLに行くのはどうか。山田吉孝氏より、参加数が少ない地域にとって不利。東海はチーム数が多いため実力があってもジャパンオープンに出られない。次年度には、次の実力のあるチームがビギナーに出て優勝する。宮下充氏より、ブロックのチーム数に差があるのは事実。足切りを変更するのは難しい。メンバーが変更になれば、本当にそのチームがオープンに出たかどうかを管理するのは困難。ロボカップでエ

ントリーを一括して管理するのがベストだと思う。大橋代表理事より、急なルール変更は出来ないため、2024年は現行通りのルールで行う。また、来年からは、技術委員長にもブロック長会議への参加を案内するとの報告がなされた。

- ・松山理事より、各ブロックから技術委員を出してもらっていますが、技術委員の参加人数に上限はないため、積極的な参加を推奨した。